大館の歴史散歩

食と生活を訪ねて②

大館の縄文時代

晩氷期（一万三千年～一万年前）に入ると、亜寒帯針葉樹林に代わってブナ林を中心とする落葉広葉樹の森が日本列島に広がってくる。それは北緯四〇度以南の日本海側多雪地帯に顕著で、この時期に人々の食生活は大変貌を遂げる。

環境変化に適応した生活スタイル、季節変化に適応した生活カレンダーが確立されるその第一歩が土器の発明であった。考古学ではこの時期を縄文時代草創期と呼び、およそ一万年間続く縄文時代の幕開けとしている。そして草創期の遺跡は、当時のブナ林の分布範囲と符合している。

東北地方北部にブナ林が広がるのは、花粉分析の研究によっておよそ八千五百年前ごろと推定されている。そのころは縄文時代早期にあたり、軽井沢鳶ケ長根Ⅳ遺跡など、その時期になって大館市内の遺跡数が増大することとブナ林の広がりとは密接な関係にあったといえる。

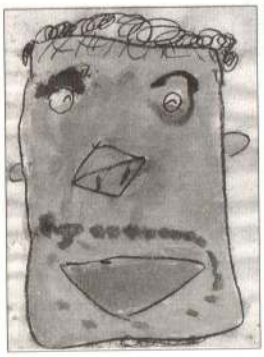
ブナ林にはクルミ、トチノキ、コナラ、ミズナラなどの食用堅果類を供する木が成育していた。トチやコナラ、ミズナラは灰汁抜きしなければ食用には適さない。ナラ類の灰汁は水溶性のタンニンなことから、水に入れてたたいて灰汁を抜く作業を何度も繰り返すことで食用とできる。トチの灰汁は非水溶性のサポニンやアロインで、これはアルカリで中和して流す必要がある。中和剤として利用されたのが「灰」であった。トチと灰を一緒にグラグラと煮るための道具が土器なのである。

土器は、環境の変化に適応するために人間の英知が生み出した偉大な発明で、現在私たちの生活の中に生き続けているナベ、カマといった煮沸道具の原点なのである。ナラ類やトチは灰汁抜きの手間はかかるが、その労さえいとわなければ、多量に収穫でき、実のままでも粉にしても長期保存が可能で、人間にとって極めて貴重な食糧となった。事実、近世の飢饉の際などには救荒食糧であったし、現代においても、万一の際には私たちを救ってくれる食糧と成り得る。ブナの森が与えてくれる恵みは非常に大きいのである。

縄文人は、安定して得られるクリ、クルミ、トチ、ナラ類を基調食糧とし、小型獣や季節の産物である山野草を獲得し、そして海や川の魚介類をも求めて食糧とした。その対象物を一つ一つ具体的に挙げる紙幅はないが、野山の恵み、海・川の恵み、そしてそれらを保存するための技術開発。その姿を頭の中で思い描いてみてほしい。なんと豊かな自然の恵みの中で縄文人たちは生活していたのだろう。現在、そんな恵みを感受できる自然は残されているのだろうか。体験できる自然はあるのだろうか。煮沸道具の原点である土器は、そうした自然の恵みを受ける道具として発明され、自然への感謝を込めて美しい装飾が施された。

市役所史跡探訪会

ちびっこギャラリー おとうさん



あさみず まやかちゃん
オニごっこで、ときどきわたしタッチできるのよ

あべ ゆうたろうくん
たたかいごっこすると、かつこともあるんだ

ホテヤ幼稚園

あらやしき みわこちゃん
かくれんぼしてくれるの。かくればしょはひみつよ

クイズ 広報おおだてがヒント

▽**問題**

①市議会6月定例会は何日に招集された？

②院外処方せん、市立総合病院では何月から全面実施になる？

③鶏の名前にもついていますが、大館の方言で「短気者」のことを何という？

④商業統計調査は何年ごとに行われる？

⑤5年中に大館署管内で起きた空き巣等の犯罪件数は？

▽**応募方法**

はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え（例①―②―）を書いてご応募ください。

▽**締め切り**

6月27日（月）当日消印有効

▽**応募先**

〒017大館市字中城20番地
広報おおだてクイズ係

※全問正解者の中から抽選で5人に、広報おおだて特製「秋田犬」のテレホンカードを贈ります

▽**5月16日号の答え**

①335件 ②5月1日 ③酒屋 ④6月3日 ⑤三浦綾子

▽**5月16日号の当選者**

・谷地田和子さん（片山5区）
・松沢香那子さん（大森団地）
・佐々木小百合さん（白沢3区）
・河田マサ子さん（旭ケ丘）
・佐藤裕子さん（独鈷町）

※応募総数54、全問正解者46